

45. さて、十二時から、全地が暗くなって、三時まで続いた。
46. 三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」と叫ばれた。これは、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」という意味である。
47. すると、それを聞いて、そこに立っていた人々のうち、ある人たちは、「この人はエリヤを呼んでいる。」と言った。
48. また、彼らのひとりがすぐ走って行って、海綿を取り、それに酸いぶどう酒を含ませて、葦の棒につけ、イエスに飲ませようとした。
49. ほかの者たちは、「私たちはエリヤが助けに来るかどうか見ることとしよう。」と言った。
50. そのとき、イエスはもう一度大声で叫んで、息を引き取られた。
51. すると、見よ。神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。して、地が揺れ動き、岩が裂けた。
52. また、墓が開いて、眠っていた多くの聖徒たちのからだが生き返った。
53. そして、イエスの復活の後に墓から出て来て、聖都には行って多くの人に現われた。
54. 百人隊長および彼といっしょにイエスの見張りをしていた人々は、地震やいろいろの出来事を見て、非常な恐れを感じ、「この方はまことに神の子であった。」と言った。
55. そこには、遠くからながめている女たちがたくさんいた。イエスに仕えてガリラヤからついて来た女たちであった。
56. その中に、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフとの母マリヤ、ゼベダイの子らの母がいた。

説教

今日は、誰にでも理解できるような聖書の話をしたいと思います。

冒頭のことばは、イエスさまが十字架の上で叫ばれたことばです。今から約二千年前の暦でいうとちょうど今週の金曜日の午後三時頃、イエスさまは十字架の上で大声で「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」と叫ばれます。そうして、間もなく息を引き取られたのでした。

キリスト教あるいは教会といえば、十字架がシンボルです。カトリックだとイエスさまが磔になったままの十字架、プロテスタントだとイエスさまが復活なさった後の十字架が、それぞれのシンボルとなっています。でも、十字架それ自体はもともと決して格好の良いものではありませんでした。むしろ、とてもじゃないけど到底シンボルになり得るようなものではありませんでした。なぜなら十字架とは死刑の道具であるからです。日本では絞首刑によって死刑が執行されます。先日、報道機関に刑場が公開されて、どのように死刑が執行されるのか実に生々しく知らされました。イエスさまの時代の十字架刑は、日本のように非公開ではなく、見せしめも兼ねた公開処刑でした。誰でも、子どもでも、罪人が十字架で残酷に処刑される姿を見ることができました。ですから、当時の人たちは、十字架と聞けば、身の毛もよだつ、泣く子も黙る恐怖を感じたと思われます。いくら日本でも絞首刑の縄を自分たちのシンボルにするようなことをする人はいないと思いますが、同じように、十字架を喜んでシンボルに掲げるようなことは本来考えられないことでした。

それでは、キリスト教会は、今日、どうして十字架を自分たちのシンボルとして、それこそ文字通り高く掲げるのでしょうか。それは、この十字架無くして私たちの救いがなかったからです。キリストが十字架で死んでくださることがなければ、私たち人間の救いはありませんでした。キリストが十字架で死んでくださったからこそ、私たち罪人は救われるのです。

このことを考える上で、私たちは、人間が何者であるかを知らなければなりません。みなさん、人間とは何者

でしょうか。私たちが知らなければならない事実は、先ず第一に、人間とは神に造られたものであるということです。聖書によると、神はこの天と地を造って宇宙の歴史をお始めになりました（創世記 1:1）。時間も空間も、そして天地万物に満ちる一切の物は、神によって造られました。神は永遠に生きておられ、天と地、そして万物を造り、すべてのものを支配しておられます。この方によらずにできた物は何一つ無く、すべてのものはこの方によって造られ、この方によって支配され、この方のために存在しています。神は創造主にして支配者です。そして、人間はこの神によって造られました。人は、神に愛され、望まれて、この世に生を受けました。たとえどんな人でも、人として生まれた以上は例外なく神に愛され、望まれて、この世に生まれました。自分がどう思おうと、他人がどう思おうと、人は神に愛されてこの世に造られたのです。しかも特別に愛されて造られました。特別に神に似た者として、神のかたちに造られました。悪魔のようにではなく、神のような者として造られたのです。それは神の働きをするためです。神と共に生き、神と同じ思いで、神の働きをするためです。神が造られたこの世界をダメにせず良くするためです。荒野を変えて果樹園とするためです。そのために、神は人を神のかたちに造られました。他の被造物には無い、とびきり優秀な知性と感性と意思とを人間にお与えになったのです。

ですから、人は、こんなにも良く神に造っていただいたことを感謝して、神と共に生き、神の働きを喜んでなすべきでした。しかし、人はそうしません。神に感謝しません。むしろ高ぶって、神に従うどころか、自分が神になろうとします。自分勝手に生きています。傍若無人に振る舞います。神に反旗を翻し、神に反逆したのです。神のようにではなく、悪魔のように生きます。人を殺し、神が造られたこの世界を破壊します。これが人間です。こうして、神は人をすばらしく良く造られたのに、人は神に逆らいました。

このような恩知らずにも反逆した人間に対して、神は怒りを発せられます。そして、罪深い人間を呪って滅ぼされます。罪を犯した人間に神がくださった呪いは、人を死刑にして殺す（塵に帰らせる）ことでした。罪を犯した最初の人間アダムはエデンの園を追放されて最後は「死ぬ」ようになりますが、それは要するに罪を犯した刑罰として殺されることを意味します。しかも、最初はおよそ 1,000 年生きることを許されていた寿命も、罪深さが増すにつれ 120 年と短くなり、それでも目に余るほど罪深い場合（ノアの時代）には「洪水」で 120 に満たぬまま容赦なく殺されてしまいます。しかも「死」という刑罰を科された人間にとって、人生は死刑が執行されるまでの猶予期間に過ぎません。たとえ 120 年、1,000 年生きても、刑は確実に執行されます。最後は必ず死ぬのです。そして死んだら、すべての人間は終わりの日の「最後の審判」に於いてすべての罪をさばかれます。神はすべての罪人の罪に報いて、神に反逆する者をひとり残らず地獄の火に投げ込まれます。もしも神の憐れみがなかったならば、誰ひとりそこから救われることはありませんでした。神の怒りの炎によって永遠に焼き尽くされなければなりません。

しかし、神は、罪深い人間がそのまま滅びるようにはなさいません。それで、神はイエスさまをこの世に遣わされました。神がイエスさまをこの世に遣わされた目的はただ一つ、私たちの身代わりとするためです。救いよのない罪人である私たちの身代わりとするためです。そして、私たちの身代わりにイエスさまを殺して、私たちを救うためです。そのために、父なる神はイエスさまをこの世に遣わされました。イエスさまは神の子です。私たちのように罪人ではありません。100 %父なる神に従い抜いた義人です。父なる神は、義人であるイエスさまを十字架で殺して、私たちの罪を贖って清算してくださったのです。

イエスさまは十字架で叫ばれました。「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」どうして父なる神はイエスさまをお見捨てになったのでしょうか。それは罪人を救うためです。そうしないと、罪人を見捨てなければなりません。私たち罪人が「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」と地獄の火の中で永遠に叫び続けなければなりません。神に見捨てられることは最も恐ろしいことです。病気や事故など不幸な出来事に見舞われると、私たちは落胆します。でも、この世でどんなに失望しても、それは永遠のものではありません。人に見捨てられても、一時の寂しさに過ぎません。現状は暗くても、神の助けがあれば

希望があります。でも、神に見捨てられたらどうでしょうか。それはこの世で最も恐ろしいことです。否、この世でもあの世でも最も恐ろしいことです。救いようがありません。それは終わりのない永遠の絶望と言うべきものであり、究極の絶望です。

義人イエスさまは、私たち罪人の身代わりになって十字架で死なれました。「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」と私たちの身代わりにかんじられました。ここに私たち罪人の救いがあります。ここに地獄がありますが、同時に天国もあります。イエスさまの十字架に、私たちは天国と地獄を見ることができます。地獄というのは、これが罪人に対する神のさばきであるからです。地獄では神に見捨てられた罪人たちが、終わりなく永遠に、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」と叫び続けるのです。でも、同時に、ここに天国もあります。なぜなら、こう十字架で叫んだのは、私たちではなくイエスさまだからです。ここに救いの希望があります。私たち罪人にとっての希望です。イエスさまが罪人の身代わりになって十字架で死んでくださったので、私たち罪人は神のさばきを受ける必要がありません。もしもイエスさまが十字架で死ななかったら、私たちが神のさばきを受けなければなりません。

「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」このことばを読むたび思い出す光景があります。神学校を卒業して青森の教会に赴任した時のことです。教会員の経営する障害者施設で知的障害の人たちに週に一度聖書を教えに行きましたが、一番最初の時、知的に障害のある人たちが果たして福音を理解できるのだろうかと考えて、十字架の絵を持って行きました。その絵は私の父が退職記念の旅行で買って来てくれた、イエスさまが無惨に十字架に架けられている絵です。それを見せて、私は最もこう単純に説明しました。「これは私たちの身代わりになって十字架で死んでくださったイエスさまです。本当は罪深い私たちがこうならなければならなかったのに、イエスさまがこうして身代わりになって死んでくださったので、私たちはこうならなくてもいいんです。」彼らは私の話すひと言ひと言にいちいち驚き喜びながらよく反応してくれましたが、最後に「このことを信じますか。信じる人は手を挙げて？」と言うと、なんと全員が手を挙げたのです。それを見て、むしろこちらが驚きました。私の単純な説明ひとつひとつに「うわー」、「えー！」、「よかった」と単純に反応するので、その単純な姿を見て、私自身が恵まれました。

すべての人間は神に対して罪を犯したので、「最後の審判」の日にはひとり残らず神のさばきを受けます。私たちが神を見捨てた罪の報いを受けて、私たちもまた永遠に神に見捨てられます。でも、イエスさまを信じる者は、神に見捨てられることはありません。なぜなら、私たちの身代わりになってイエスさまが見捨てられてくださったからです。そうでなければ、すなわち、イエスさまを信じなければ、自分自身が神に見捨てられるのです。重ねて申し上げますが、すべての人間は終わりの日に神のさばきを受けなければなりません。犯した罪の落とし前をつけなければなりません。問題は、落とし前を、自分が直接それを受けるか、あるいはイエスさまを通して受けるかのいずれかです。そして、イエスさまを信じる者は、自分の身代わりになって十字架で死なれたイエスさまを通して神のさばきを受けたので、終わりの日に神の怒りと呪いを受ける必要がありません。イエスさまを通して神に見捨てられて、自分の罪の精算を既に済ませてしまったからです。

イエスさまは**「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」**と言われましたが、言うまでもなく、ご自分がどうして見捨てられたのかを知らないわけがありません。どうして自分が父なる神に見捨てられて十字架で死ぬのか、その理由を誰よりもよく知っていました。これまで何度もそう予告してきたし、前日には十字架で流される血が「あなたがたのために流される」とまで言われました。ならば、どうして「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と叫んだのでしょうか。叫ぶ必要もないのに、今更敢えて父なる神に尋ねる必要もないのに、こう叫んだのでしょうか。それは、私たちのためです。罪深い私たちの身代わりとして叫ばれたのです。そうしないと、私たちが地獄でこう叫ばなければなりません。だから、私たちの身代わりとなって、十字架に架かり、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と叫ん

でくださったのです。

ここに集う皆さん一人ひとりが、私の身代わりとなって父なる神に見捨てられてくださったイエスさまを信じて、地獄の滅びをまぬがれて、天国に行くことができるよう、主の御名により祈ります。